

Ⅱ．自由研究

毎年、かんきょう観察員が自然環境等についてご自分で興味を持ったことを自由に研究し、報告してくださっています。

今年度は、7名のかんきょう観察員の方から、レポートをお寄せいただきました。以下は、自由研究テーマの一覧です。

表 2-3 令和 6 年度 かんきょう観察員 自由研究テーマ一覧（敬称略・50 音順）

氏名	令和 6 年度自由研究テーマ	掲載 ページ
筏井 洋之	板橋区のカメムシ目アブラムシ類の一年間 -2024 年-	24
遠藤 周次	住宅(南町住宅)に飛来する鳥達	26
黒木 満生	板橋区平和公園・へいわ池 カモの飛来数調査・他 ①	27
	板橋区平和公園・へいわ池 カモの飛来数調査・他 ②	30
佐藤 滋子	大むかしからの植物(マツバラン)	32
関口 健治	スマレの観察(ツマグロヒョウモンの食草)	33
山崎 心結	自宅周辺の観察(サルスベリ)	34
山田 元一郎	2024 年度 ツバメ調査	38

レポートはかんきょう観察員の方々からいただいたものを原文のまま掲載しております。なお、掲載の都合上、いただいたレポートの一部を割愛させていただいている箇所もあります。

原本は、エコポリスセンター1 階「環境情報資料室」で自由に閲覧できますので、ぜひご覧ください。

「板橋区のカメムシ目アブラムシ類の一年間 -2024 年-」

筏井 洋之

テーマ	板橋区のカメムシ目アブラムシ類 の一年間 -2024 年-	調査日	2024 年 4 月 6 日 ~ 2025 年 1 月 7 日
昨年は甲虫目のオサムシ類を中心に報告しました。今年は板橋区のカメムシ目のアブラムシ類も一年間観察しました。観察地域は昨年と同じく西台公園とその周辺、徳丸地区、赤塚公園とその周辺です。分類は全国農村教育協会の「アブラムシ入門図鑑」(2008年初版)に拠りました。同じく全国農村教育協会の「日本原色アブラムシ図鑑」(1983年初版)も参考にしました。アブラムシ科は日本では約700種が報告されています。			
種番号	種名(和名)	アブラムシのいた植物名	
38-1	マツヨイグサ アブラムシ	コマツヨイグサ	
42-1	ヒエノ アブラムシ	アゼガヤ	
46-2	トウモロコシ アブラムシ	アゼガヤ	
58-1	ヨモギ ヒメヒゲナガ アブラムシ	ヨモギ	
63-1	セイタカアワダチソウ ヒゲナガ アブラムシ	セイタカアワダチソウ	
67-1	ノゲシ フクレ アブラムシ	ハルノノゲシ	
67-2	チシヤミドリ アブラムシ	ハルノノゲシ, オニノゲシ	
68-2	タイワンヒゲナガ アブラムシ	アキノノゲシ	
68.2 近似種	アキノギリソウ ヒゲナガ アブラムシ	オオアレチノギク	
69-2	ヒメムカシヨモギ ヒゲナガ アブラムシ	ヒメジョオン	
78-1	ホトケノザ クギケ アブラムシ	ホトケノザ, ヒメオドリコソウ	
96-1	ソラマメ ヒゲナガ アブラムシ	カラスノエンドウ	
96-2	エンドウ ヒゲナガ アブラムシ	カラスノエンドウ	
104-1	モミジニタケ アブラムシ	カエデ	
121-1	エノキ ワタ アブラムシ	エノキ, ケヤキ	
128-1	サクラ コブ アブラムシ	ソメイヨシノ	
129-1	ムシヤコブ アブラムシ	ソメイヨシノ	
132-1	サンザシ ハマキ ワタムシ	サンザシ, カイドウ	
133-1	リンゴコブ アブラムシ	サンザシ, ハナカイドウ	
135-1	ナンミドリ オオアブラムシ	シャリンバイ	
139-2	イチゴ ハマツムラ アブラムシ	クマイチゴ	
148-2	クヌギトゲ マダラ アブラムシ	クヌギ	
153-1	ハギ オナガ ヒゲナガ アブラムシ	コバノカマズミ SP	
156-2	オカボ キバラ アブラムシ	クマイチゴ	
159-2	ヒラキ オオワタムシ	ソヨゴ	
160-2	トウネズミモチ ハマキ ワタムシ	トウネズミモチ	
169-2	カワリコブ アブラムシ	モモ, アベマキ SP	
170-2	キョウチクトウ アブラムシ	キョウチクトウ	
174-1	ワタ アブラムシ	イヌボスズキ, ケヤキ, エノキ, アレチエンソウ, ギンギンカンキツ類, ヤブニンジン, ヤブガラシ, フヨウ, クチナシ, ユキヤナギ, ハナゾノツクバネウツギ, コデマリ, カナメチ	
175-1	ユキヤナギ アブラムシ	カラスノエンドウ	
176-1	マメ アブラムシ	オオカワゲシ SP	
176-2	マメクロ アブラムシ	ヒメジョオン	
179-1	ジャガイモ ヒゲナガ アブラムシ	ハルノノゲシ, ヒメジョオン, モモ, ケヤキ	
181-1	モモアカ アブラムシ	クスのキ, ハルノノゲシ	
183-2	クスのオナガ アブラムシ	ハナカイドウ	
212-7	リンゴ ミドリコブ アブラムシ	ヨモギ	
217-2	ヨモギ フビレ アブラムシ	ヨモギ	
217-9	クワヤマ ヒメヒゲナガ アブラムシ	ヨモギ	

「住宅(南町住宅)に飛来する鳥達」

遠藤 周次

テーマ	住宅(南町住宅)に飛来する鳥達	調査日	R6 年 1 月 16 日 R7 年 1 月 15 日
	冬は鳥達にとってはとこもきびしい季節です。虫類は少なく花や実も少ない、生きていくには無理できない期間です。小生宅は1階ですのでベランダ=ヒメツリノケ、リンゴ、みかん、柿等を期間限定(12月~2月頃まで)においておきます。2階以上の階ですと下の階の方が糞害(憤慨)となりますので、いくら鳥達のためとはいえず実施できませんね!! 都内には水鳥を除いても30種類以上の鳥達が生息していますが、飛ぶ姿はみな異なります。黒い鳥の姿では見分けは無理ですが、飛ぶ姿が見られる近所では個体判別が出来ます。見分け方 ①そばで見ると ②飛び方を見る ③鳴き声で知る ※百舌(モズ)は他の鳥の鳴き真似が上手なので要注意です。		
	住宅地では一番大きい鳥はカラス(ハシブト、ハシボソ)、一番小さい鳥は目白(小笠原諸島には目黒もいます)です。山手線を一周すると目白、目黒を常見で見えますね。人の世界では争(食べる以外の殺生)が絶えません。鳥達のように国境がなくうまく住み分けが出来るというですね。		
A	毎日くる鳥	スズメ、Xジロ、シジュウカラ、キジバト ↳留鳥ですが数羽が関西まで飛び?に行くこと ↳ワタシのフトコロ、シジュウカラ、胸の黒いネクタイがオシロイであるのがオス	
B	週に何回か	ムクドリ、セグロセキレイ、ドバト、カラス	
C	夏以外	ヒヨドリ、渡り鳥に分類されますが、温暖化の影響から、渡らないものもいます。世の中例外はどこにも存在、渡状に飛びます。	
D	冬前後	ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ ↳渡り鳥、移動する時の足音が速い、姿勢がジェット機のように ↳渡り鳥、ナワバリ意識が強く、時には車のミラーに突撃すること ↳ツバメ、数激減、巣が作りにくい、巣材が少ない、虫が汚染されている(放射能も含め)	
E	春から秋	ツバメ、数激減、巣が作りにくい、巣材が少ない、虫が汚染されている(放射能も含め)	
F	訪れなかった、見逃した	コゲラ、モズ、シメ、ウグイス、ハヤブサ(華麗しています) ↳コゲラ、シジュウカラ→よく聴振器をおこさないものだと	
G	近隣	西光院(板橋区の七福神の一つ)にはオナガ、ホウセイインコ、ウグイスも、大木、樹木の多さは鳥の多さにも比例しています。 ↳南方の外來種ですが温暖化と耐性がついて殖えています。 都内で(は一日おきに生ゴミがあるせいか、狸、ハクビシン、ライオン等が殖えています。山中より快適なようです。 ※空家が全国で4~5件に1件との事。(ハクビシンが狙っています)	
H	その他	シロバー人形で植木の位置を占めています	

「板橋区平和公園・へいわ池 カモの飛来数調査・他 ①」

黒木 満生

テーマ	「板橋区平和公園・へいわ池」カモの飛来数調査・他										調査日	令和5年2月1日～ 令和6年1月15日
〈はじめに〉 毎朝ラジオ体操でこの「板橋平和公園」に来ますが、「へいわ池」にカモが来るのでその数を記録してみたいと思いました。「へいわ池」での他の生き物の観察を兼ねています。												
日/月	R5/2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6/1月
1	7-1	0	2	0	0	1	9	0	4	6	2	4
2	13-1	0	2	2	—	3	2	0	2	4	3-1	10-1
3	9	0	4	2	—	3	—	0	4	8	3	11
4	12-1	0	2	1	0	3	3	1	—	4	3	10
5	5-1	0	2	3	1	2	4	—	3	6	1	11-1
6	6	2	2	2	3	—	3	0	12	2	9	11-1
7	7	2	0	—	7	6	0	0	13	—	0	5
8	16-1	0	2	1※③	4	0	0※⑥	—	14	0	1	4
9	6	2	2	2	—	2	2	0※⑩	—	2	0	8
10	0	4	0	2	2	2	0	0※⑪	6-1	3	1	11-1
11	0	0	0	1	—	3	0	—	9	10	3	7
12	0	0	0	1	—	5	0	2	6	2	—	2
13	2	2	0	1	1	2	3※⑦	3	22	8	0	5
14	0	0	1	4	4	3	0	0	5	5	3	0
15	0	2	—	—	0	3	0	0	—	6	—	9
16	0※①	2	2	4	3	4	1	4	6	4	0	
17	4	0	0	7	2	4	0	1	8	—	1	
18	4	—	0	3	1	2	1	0	6	2	8	
19	0	2※②	0	1	0	7	0	2-1※⑫	2	8	7	
20	0	2	0	—	1	6	1	0	2	11	13-1	
21	0	2	0	5	2	4	1	7	10	8	12	
22	0	0	1	3	3	8※⑤	1	—	4	0	11-1※⑭	
23	2	0	—	—	2	3	3	0	4	2	9-1	
24	0	0	0	2	2	2	0	0	3	2	4	
25	0	—	0	3※④	2	4	0	1	2	4	7	
26	0	—	—	1	0	5	0※⑧	6	6	2	12	
27	—	0	0	3	1	7	0	4	6	6※⑬	11-1	
28	2	—	2	1	3	6	0※⑨	4	4	7-1	15-1	
29		2	0	0	5	4	0	8	—	5-1	11-1	
30		2	0	2	—	6	0	4	12	3	11-1	
31		3	—	—	—	7	0	—	8	—	6	

* 時間は午前6:30前後 ラジオ体操時

* 左側・中央＝カルガモ 右側＝マガモ

* 0＝飛来無 —＝調査無(雨とか)

* ()は午後 体操時に雨だったりした時など

※①「カルガモ」が来ない日が続いている。気になる。

※②ラジオ体操時に「カルガモ」が交尾を始めた。桜もチラホラ咲き出した。

※③午後今年初めての「マガモ」が一羽で飛来した。

※④カルガモの「子ガモ」が一羽居た 成鳥カルガモは子ガモには関心がないようで追い払っていた。
→午後子ガモを見に行ったらもう居なかった！ 気になる。

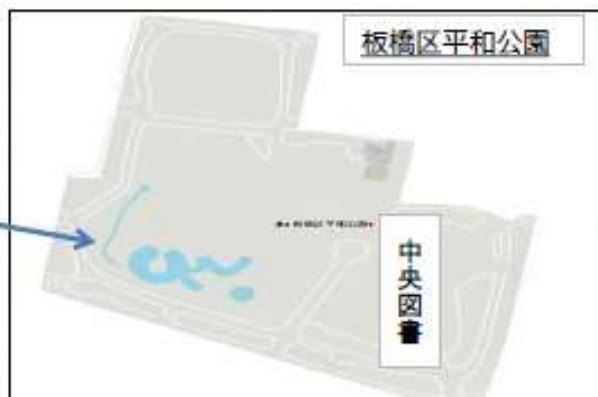
※⑤「タマムシ」の死んだのが落ちていたが、この公園でタマムシを見るのは初めて！

※⑥「へいわ池」のすぐ脇の笹に「ベニイトトンボ」が居た！ この場所で見るとは初めて！

※⑦「オオミズアオ」♀がへいわ池の近く笹の根元に居たが翅はボロボロだった。

※⑧今年も「サカキガイ」が多数池の淵の石についていた。

- ※⑨ シオカラトンボの羽化直後 池の淵で羽化していた。
 ※⑩ 池の淵で「イトトンボ」が「アシナガグモ」に捕まっていた。
 ※⑪ 池の上の桐から前夜の雨風で「シモフリスズメ蛾」の幼虫が数頭池の中に落ちていた。
 ※⑫ 久しぶりに「マガモ」のオスが来た。翅の生えかわり途中だった。
 ※⑬ いつも体操をする場所に「エナガ」の巣が落ちていた。近くの「カツラ」の枝から落ちたのか？
 ※⑭ へいわ池 初水



「へいわ池」 後方は中央図書館



※④



※⑤



※⑥



※⑦



※⑧



※⑨



※⑬



※以前はこんな光景が見られた
(2014/6/14撮影)

〈おわりに〉

前年同様一年間に飛来した「カルガモ」や「マガモ」の数と「へいわ池」の様子などを記録しただけですが、カモが来ない日は公園に来る人達もさみしそうでした。小さな人工池ですが、人にもカモたちにも憩いの場になっているようです。ここ数年、「カルガモ親子」が揃って泳ぐ姿が見られないのが残念です。この年、何故か一羽だけ居た事がありました(※④)どこで産まれたのか不明ですし、その日のうちに居なくなりました。どなたかの情報をお待ちしております。

「板橋区平和公園・へいわ池 カモの飛来数調査・他 ②」

黒木 満生

テーマ	「板橋区平和公園・へいわ池」カモの飛来数調査・他							調査日	令和6年1月1日～ 令和6年12月31日			
〈はじめに〉 毎朝ラジオ体操でこの「板橋平和公園」に来ますが、「へいわ池」にカモが来るのでその数を記録してみたいと思いました。「へいわ池」周辺での他の生き物の観察を兼ねています。												
日/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	4	0	0	—	0	2	—	0	0	0	0	0
2	10-1	0	2	2	0	—	7	1	0	2	—	1
3	11	0	0	0	0	4	1	0	0	2	0	1
4	10	—	2	0	4	2	4	0※③	0	4	4	1
5	11-1	0	2	—	0	2	1	0※④	0	2	0※⑧	0
6	11-1	—	—	—	1	3	5	0	0	2	2	0
7	5	0	2	0	2	3	2	3	0	2※⑥	0	1
8	4	0	—	0	0	0	2	0	0	—	0	0
9	8	0	2	—	0	2	2	0	0	—	0	0
10	11-1	0	2	0	3	—	9※②	1	0	4※⑦	2	2
11	7	0	2	0	2	3	10	1※⑤	0	7	—	1
12	2	0	2	0	4	3	8	0	0	11	0	0
13	5	0	2	0	—	2	0	0	0	7	0	1
14	0	0	2	0	2	3	—	0	0	13	0	1
15	9	0	2	0	3	7	3	0	0	4	—	2※⑩
16	7	0	2	0	—	4	3	—	0	0	0	2
17	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
18	5	0	2	1	2	—	2	0	0	0	0※⑨	3※⑪
19	2	—	2	1	1	0※①	4	0	0	4	0	3
20	0	0	2	0	—	4	1	0	1	0	0	5
21	—	4	2	—	1	2	1	0	0	8	—	5
22	2	0	2	—	2	2	2	0	—	0	0	4
23	6	—	2	2	2	—	—	0	—	0	0	6
24	4	2	0	—	1	0	0	0	2	7	0	3
25	0	0	—	2	0	2	2	0	2	0	0	3
26	2	0	4	2	4	0	2	0	2	3	0	3
27	0	0	2	0	2	3	0	1	—	0	—	2
28	7-1	2	2	0	5	—	1	0	0	0	0	3
29	0	2	—	0	4	1	0	0	2	—	0	3
30	0		0	—	4	0	0	—	0	2	0	3
31	0		0	—	—	—	0	—	—	2	—	3

* 時間は午前6:30前後 ラジオ体操時

* 左側・中央＝カルガモ 右側＝マガモ

* 0＝飛来無 —＝調査無(雨とか)

* ()は午後 体操時に雨だったりした時など

※① ラジオ体操しているすぐ近くのケヤキに「ヤマトタムシ」が居た。

※② 今年初めてのアブラゼミの羽化した個体が居た。

※③ 朝体操の時「へいわ池」に「カルガモ」の「子ガモ」が一羽居た。成鳥ガモは居なかったのが不思議だった。

※④ 前日の「子ガモ」はもう居なかった。前日何故一羽だけ居たのか誰も分からないようだった。

※⑤ 今年も「イトトンボ」が見られた。以降も数日間見られた。

※⑥ 池のすぐ近くで「ウスキバトンボ」が羽化していた。

※⑦ 池の「アメンボ」が殆ど岸に上がっていた。

※⑧ この公園で昼間「ヒキガエル」を見た方が居た！

※⑨ 池の近くで「ヒキガエル」が死んでいた。

※⑩ 平和池初氷(昨年は12/22日)

※⑪ 平和池の近くでドバトが動けずに居た(下痢の様子)公園には同じようなドバトが3羽居た(トリインフル?)



板橋区平和公園内「へいわ池」
後方の建物は中央図書館

※③④



※⑪

〈おわりに〉

前年同様一年間に飛来した「カルガモ」や「マガモ」の数と「へいわ池」の様子などを記録しただけですが、カモが来ない日は公園に来る人達もさみしそうでした。小さな人工池ですが、人にもカモたちにも憩いの場になっているようです。

ここ数年、「カルガモ親子」が揃って泳ぐ姿が見られないのが残念です。この年、何故か一羽だけ居た事があり

ました。どこで産まれたのか不明ですし、その日のうちに居なくなりました。御存じの方がおられましたらどなたかの情報をお待ちしております。

「大むかしからの植物(マツバラン)」

佐藤 滋子

テーマ	大むかしからの植物(マツバラン)	調査日	令6 ~7 年5月15日 1月26日
-----	------------------	-----	--------------------------

約4億年位前の無葉類に最も近い。
(水中にしか生えていなかった植物が地上に上陸した頃。)常緑多年生のシダ。暖地の樹上岩の上などに着生して育つ。地下部の菌根類から栄養をもらい胞子が育つ。茎は三角柱葉は鱗片状。二又に枝わかれした茎ばかりの体。この緑色の茎で光合成し養分を作る。地下の根茎も二又に分かれているが真の根はない。花のつぼみのように膨らんだ胞子嚢つけ胞子で増える。

ランと名付くがシダの仲間
マツバラン科では日本唯一の種
日本では環境省により準絶滅
危惧種に指定されている。

松の葉に似ているから
「マツバラン」
別名 ホウキラン

江戸時代
に園芸種として
人気でした。約120種類ほどありました。
珍しい植物を見つけられた
事はラッキーでした。
大切にしてみ守ってゆきたいと
思います。



(黄色)
(胞子嚢)
(直径2~3mm)
三室に別れる
中は白い胞子

大
20
30
cm

根
は
な
い

7/1, 8/30, 10/30, 11/20.
令6, 令7.

令6. 5月15日

「スミレの観察(ツマグロヒョウモンの食草)」

関口 健治

テーマ	スミレの観察 (ツマグロヒョウモンの食草)	調査日	2024 年 4 月 13 日 2024 年 11 月 9 日
ツマグロヒョウモン蝶の食草(スミレ科スミレ類)のスミレの開花から幼虫に食べ尽くされヒゲのような主脈だけの状態からもう一度再生していく様子を観察しました。  今年の開花の様子(4/13)  開花の様子(4/13)  開花の様子(4/13)		 ツマグロヒョウモンの幼虫に食べられて、ヒゲのような葉になった後に再生した葉(11/9)  ヒゲのような主脈だけの葉から再生した葉と花(11/9) ③ ツマグロヒョウモン  「考察」 蝶たちは、食草を食べ尽くしてもまた再生することを知っているのでしょうか？スミレが全滅してしまうと思い幼虫を駆除した年は葉は黄葉し枯れてなくなりました。今年は幼虫を駆除せず放置していました。すると葉の主脈だけ残ってヒゲのようになっていましたが、見事に葉は再生していました。枯れるより食べさせてあげようと思いました。	

「自宅周辺の観察(サルスベリ)」

山崎 心結

研究の動機	研究対象の候補として、「公園」「植物園」「近所」を挙げ、「身近」「地域性」「継続性」「安全性」「季節性」をキーワードとし、「近所の植物」としてサルスベリの調査をすることにした。この調査により自分の住む環境をより理解して、自然との共生の重要性を学ぶ。 【概要】 地域：高島平に生息する植物を対象とした 場所：個人で継続して安全に調査を行うため、自宅周辺とした 対象：調査期間と地域性、関心度を考慮して、花に注目した。 期間：2022年5-8月の毎月1回、定点観測を行った。
研究の目的	観察できたサルスベリを調べ、身近な環境を知る
研究方法	① 事前調査したサルスベリと、実際に観察できたサルスベリを比較し、どれに当てはまるのか調べた。 ② 2024年5-8月の毎月1回、定点観測を行い、実際に確認できたサルスベリを調査し、環境観察と考察を行った。 ③ 調査にあたって使用する素材は以下の4つとした。 1) 調査確認シート（自身のメモ） 2) 図鑑 3) カメラ、ルーペ、手袋
サルスベリの事前調査	1. サルスベリ A: - 高さ：2メートル - 花の色：ピンク - 葉の形：楕円形 - 特徴：花が大きく、目立つ 2. サルスベリ B: - 高さ：1.5メートル - 花の色：白 - 葉の形：卵形 - 特徴：花が小さく、控えめだが、香りが強い 3. サルスベリ C: - 高さ：2.5メートル - 花の色：赤 - 葉の形：長楕円形 - 特徴：花が多く、見た目が豪華 これらは、高さ、花の色、葉の形、特徴によって区別できるため、それぞれの特徴を観察して、どのタイプに属するか調べた。

【花の観察】

場所	近隣定点 5～8 月 気温 20 - 37 度						
種類	高さ	花の色	葉の形	特徴	月	総種類	写真
01 サルスベリ	1m	紫ピンク	楕円	花が小さく多め	6. 7. 8	3 種類	○
02 サルスベリ	1. 5m	薄ピンク	楕円	香りがある	7. 8		○
03 サルスベリ	2m	濃ピンク (赤に近い)	楕円	花大きい	7. 8		○

【結果】

それぞれの特徴から多くの○がついたサルスベリを特定した。

01 : サルスベリ C

サルスベリ	高さ(m)	花の色	葉の形	特徴
A	2	ピンク	楕円形	花が大きく、目立つ
B	1. 5	白	卵形	花が小さく、控えめだが、香りが強い
C	2. 5	赤	長楕円形	花が多く、見た目が豪華

02 : サルスベリ C

サルスベリ	高さ(m)	花の色	葉の形	特徴
A	2	ピンク	楕円形	花が大きく、目立つ
B	1. 5	白	卵形	花が小さく、控えめだが、香りが強い
C	2. 5	赤	長楕円形	花が多く、見た目が豪華

03 : サルスベリ A

サルスベリ	高さ(m)	花の色	葉の形	特徴
A	2	ピンク	楕円形	花が大きく、目立つ
B	1. 5	白	卵形	花が小さく、控えめだが、香りが強い
C	2. 5	赤	長楕円形	花が多く、見た目が豪華

なお、サルスベリ B と考えられる白い花は見つからなかった。

【考察】

1. 気候と季節：サルスベリは暖かい地域でよく見られ、夏に美しい花を咲かせます。したがって、私の住む地域は比較的温暖で、現在は夏季だと判断できます。
2. 生物多様性：サルスベリが生育していることは、その地域には他の植物や動物も生息している可能性があり、サルスベリの花は蝶やハチなどの昆虫を引き寄せるため、これらの生物も観察できる。
3. 環境問題：サルスベリは都市部でも育つ強い植物ですが、自然環境が適切に保たれていない場合、サルスベリの生育が阻害される可能性がある。例えば、大気汚染や土壌汚染が進んでいる場合、サルスベリの成長に影響を及ぼすと考えられます。
4. 人間と自然の関係：サルスベリが近所に咲いているということは、人々が自然と共存し、植物を大切にしている証拠と言えます。しかし、自然を適切に管理しないと、サルスベリが過剰に増えて他の植物の生育を阻害するなど、生態系のバランスを崩す可能性もあります。
5. サルスベリ B が観察できなかった原因は、以下の可能性が考えられた。

- 気候条件：その年の東京の夏が例年よりも暑すぎた、または雨が多かった場合、サルスベリの成長に影響を与えた可能性がある。
実際、2024 年の夏の期間（6～8 月）の日本の平均気温は、速報値で昨年と並んで過去最高となりました。厳しい暑さが長期間続いたことが特徴的でした。

〈夏の平均気温偏差の高い順〉 1)

2024 年	+1.76℃
2023 年	+1.76℃
2010 年	+1.08℃
2022 年	+0.91℃
1994 年	+0.79℃

- 病気や害虫：サルスベリは病気や害虫に弱い場合があります。これらの影響で植物が弱ったり、死んでしまった可能性もあります。
実際害虫の写真は撮れなかったが、ところどころ葉に穴が開いているものがあつたため、害虫の可能性は高いと考えた。また、うどんこ病という、糸状菌のカビの一種で 3 月から 4 月ごろから発生しますが、前年から樹上で冬越しした菌が発生源となる。この予防策としては、茂りすぎた枝を間引いて、風通しと採光をよくすることです。 2) 3)



3) 葉に穴が開いている様子

- 環境変化：日当たりが悪くなった可能性もあります。
周辺に背の高い建物が増えたり、高い樹木の陰になっていたのも、環境変化も原因の1つだと考えた。

【感想】

サルスベリのような植物は、都市環境に適応する能力があるため、都市の緑化に貢献できるという点で非常に価値があると思いました。しかし、その一方で、生物多様性を保つためには、植物の適切な管理が必要であると感じます。これは、私たちが自然と共存するために考えるために重要なポイントだと思いました。このように、身近な自然を観察することで、環境問題について考えるきっかけを持つことができ、サルスベリのような植物がどのように環境に影響を与えるかを理解することで、私たちが地球を守るために何ができるかを考える上で大切なきっかけとなり、来年は別の視点で調査を試みようと思いました。

以上

引用文献

- 1) 株式会社ウェザーニューズ weathernews.com/jp/c/terms/ (2024. 8. 29)
- 2) NHK 出版 みんなの趣味の園芸 (2024. 8. 12)
- 3) https://www.shuminoengei.jp/m-pc/a-page_p_detail/target_plant_code-10/target_tab-2 (2024. 8. 30)

「2024 年度 ツバメ調査」

山田 元一郎

2024年4月1日 ツバメ初見日

新しく作られた巣は、見つけれなかった、またほとんどの巣は、オープンガレージの壁面や外灯の傘の上がほとんどでした。

2015年頃まで使われていた放棄巣、2か所（板橋区双葉町7-13）

2023年使われていたが今年は使用されず。徳丸6-3 ウエルシア薬局の軒先

2023年空き巣になっていたが、2024年に再び使われだした。

大谷口北町50 ここでは、ヒナ4羽、確認されて、8月1日に4羽無事に巣立った。

板橋区大和町41-13のオープンガレージの巣では、ヒナ3羽居たのですが、6月4日に1羽、巣から落下して死んでしまった、と知らされた。

板橋区大和町40-6のオープンガレージには、4個の巣がありました。まるでツバメ団地の様でした。

7月16日団地の巣では、4羽のヒナを確認しました。ヒナは丸裸で、頭に薄茶色の産毛が、生えていた。

7月20日車庫に車が入っていて、門が閉められていたので、外周にて観察する。

1時間に10回以上、餌やりに来ていた

7月23日、4羽の内3羽がツバメらしい黒い燕尾服になっていたが、1羽は少し茶色っぽい羽で、少し成長が遅れていた。4羽とも、くちばしの根元は黄色であった。

7月26日4羽の内3羽が、黒い羽が揃っているが、1羽は、こげ茶色羽にまだ産毛が、親ばねの付け根に残っていた。

7月29日4羽共、巣立ち完了したが、巣のまわりで、親からの給餌を待っている。

17時15分 団地巣の近くの空いている巣に、3羽が戻っていた。

7月30日 15時30分巣は不在、ヒナと親は、20から30メートル離れた電線に、止まっていた。

8月1日 巣が空っぽになっていた。17時10分頃、3羽が巣の近くに戻って来た。

8月3日 中根橋上空には、6～8羽位飛んでいる。双栄橋、西堰橋の間を空中給餌をしながら、子育てや餌取りの訓練をしているように見えた。

8月4日 残っているツバメが少なくなった。

8月5, 6, 8日日増しにツバメが減っていく。

8月10日 中板橋商店街で、1個巣が見つかった。

8月23, 26日 双栄橋上空で1羽見かけた。

9月3日 中根橋上空で、1羽確認。

9月13日 中根橋上空からツバメがみられなくなったため観察を終了しました。